

テーマ 「交通安全教育・指導」

交通社会の事故状況に触れ、児童が自分の命を守るために必要な行動の習得

レポート

普通乗用車での死角体験



長久手市立 長久手小学校

教職員研修

令和5年7月31日(月)

図書室・体育館前

60分間

教職員 約30名



ヘルメットのポイント
1、まゆ毛まで深くぶる
2、耳の横 ベルトはV字
3、あごの下 指2本分

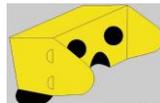


愛知警察署 清水さんのお話
身近なところでも重大事故が発生しています。決して「自分だけは大丈夫だ、車が止まってくれる。」と思っはけません。

GIANTストア名古屋
店長 山上さんのお話
安全のためには、自転車の整備、そして、身体に合わせる事が大切です。



チャイルドビジョン



ルームミラー



たくさんの死角がある自動車。車の運転者から見えていないかもしれない。道を渡る時は止まって安全確認「右・左・右・後ろ」。チャイルドビジョンで、児童の視野の狭さを体験した先生方は、「だからこそ、見る方向に顔を向けて視界を拡げて安全確認することが大切です。」

教頭先生の講評

- ・講師 片山について
教員経験者の目線から、子どもたちに安全確認の的確な動作を習慣づけるための授業手法や教員自身が交通社会状況に危機意識を持ち、日々児童へ語り掛ける重要性を再認識させられた。
- ・講師 清水について
身近な環境でも児童が巻き込まれ重大な事故が多数発生していることを学び、改めて当事者意識を高めた。子どもたちに自分自身の目で見て考えて安全を確かめることの大切さを伝えたい。
- ・講師 山上について
整備士の方からのお話を伺い、自転車を安全に運転するという事は、身体にあった自転車やヘルメットの適正装着が大切だと分かった。保護者の方々にもぜひ聞いて欲しいお話と思う。

写真：長久手小 河原・OSCN 片山 文：OSCN片山

主催：長久手市立長久手小学校
プログラム立案・代表講師：片山昇

受託：交通教育NPO OSCNじてんしゃスクール
講師：愛知警察署 清水勝也・GIANTストア名古屋 山上伸夫

この研修は、9月11日「3年生自転車交通安全教室」とともにOSCNが受託した事業です。



OSCN

じてんしゃスクール